2023旗開き・春闘討論集会

日時　2023年１月13日（金）
　　14：00～17：00
場所　水戸市　フェリヴェールサンシャイン
内容　旗開き
　　春闘討論集会（2023春闘方針提起）

自治労茨城

水戸市桜川 2-3-30　自治労茨城県本部
Eメールアドレス kenhonbu@j-ibaraki.jp
編集発行人 ＝ 千　歳　益　彦
毎　月　5　の　日　発　行
定　　価 ＝ １部５円（組合費に含む）
印 刷 所 ＝ コトブキ印刷株式会社

12月11日茨城県議選

県本部推薦５人が当選

12月11日投開票で行われた茨城県議会議員選挙（定数62）は、県本部が推薦した日立市の齋藤英彰さん、ひたちなか市の二川英俊さん、水戸市・城里町の玉造順一さん、筑西市の設楽詠美子さん、古河市の中村勇太さんの無投票を含む５人が当選しました。那珂市の遠藤実さん、美浦村・阿見町の落合剛さんは惜しくも次点となりました。

また、同日行われた笠間市議会議員選挙は石松俊雄さんが当選を果たしました。

各単組でご支援いただいた皆さまに対し、心より感謝を申し上げます。

茨城県議会議員選挙結果（12月11日投開票・投票率38.54%）

選挙結果	選挙区	推薦候補者	年齢	党派・現新	定数/立候補 投票率	得票数 順位
当選	日立市	齋藤英彰（さいとうひであき）	62	国民民主・現	4/5 37.27%	11,062 3位
当選	ひたちなか市	二川英俊（ふたかわひでとし）	44	国民民主・現	3/4 31.08%	13,309 2位
次点	那珂市	遠藤実（えんどうまこと）	56	無所属・現	1/2 40.73%	8,895
当選	水戸市 城里町	玉造順一（たまつくりじゅんいち）	51	立憲民主・現	6／10 38.28%	10,630 4位
当選	筑西市	設楽詠美子（しだらえみこ）	46	立憲民主・現	2/3 43.26%	12,677 1位
次点	美浦村 阿見町	落合剛（おちあいつよし）	27	立憲民主・新	1/2 30.55%	7,167
当選	古河市	中村勇太（なかむらはやと）	36	無所属・現	3/3 無投票	―

笠間市議会議員選挙結果（12月11日投開票・投票率45.70%）

選挙結果	推薦候補者	年齢	党派・現新	定数/立候補	得票数 順位
当選	石松俊雄（いしまつとしお）	64	無所属・現	22/25	1,803 3位

あなたの声ではじまる春闘

自治労春闘中央討論集会

12月８日から９日にかけて、「自治労２０２３春闘中央討論集会」が開かれました。

この集会は春闘方針について討論を行い、今後全国で展開される春闘の闘いにむけた重要な集会となります。

主催者を代表し川本執行委員長は「連合は２０２３春闘５％賃上げ要求と決定した。自治労も春闘期に全単組で要求書を提出するには、普段の組合活動を通じて組合の信頼の獲得があらためて重要となる。賃金や労働条件改善に加え、新規採用職員の組織化、４月に行われる統一自治体選挙にむけ全力で取り組もう」と話しました。

あいさつする川本委員長

春闘方針では、賃金や人員確保、労働条件の改善、新規採用職員をはじめとする組織基盤の強化にむけた取り組みが提起されました。

人事院勧告を受けて要求・交渉を行う確定期の取り組みだけでなく、春闘期に職員の給与実態の把握・分析を行い、賃金運用改善につなげていきます。また、コロナ対応により職場では恒常的な人員不足が生じていることが再確認されました。人員配置の実態点検を行い、春闘期にも人員確保を求めていかなければなりません。

自治労春闘スローガンは「あなたの声ではじまる春闘」と決定しました。１年間の闘争のスタートである春闘期に、あらためて職場環境や賃金・労働条件の改善を求めます。職場改善には、組合員の声が反映された要求がなくてはなりません。要求実現にむけて、労働組合に結集する必要があります。

県本部では現在、「２０２３生活・労働実態調査」を行い、組合員の皆さんの生活実態、身近な職場の声を集めています。ぜひ回答をお願いします。

生活・労働実態調査

討論集会の中で行われた分散会では、本部の政府への意見反映、段階的定年年齢の引き上げによる運用面の労使協議、会計年度任用職員の処遇改善、賃金改善、組織化の取り組みなど多岐にわたり意見交換が行われました。

記念講演では、「現代社会の新たな階級構造と労働組合に求めること」と題して、早稲田大学の橋本健二教授が講演しました。

橋本教授は、これまでの政策で労働者の低賃金・非正規化、不安定生活者が増加し格差が拡大、自治体では会計年度任用職員（非正規職員）が増え続けている。組合は会計年度任用職員の声を聞く必要がある。社会の変革は、政策と運動の相互作用によって実現すると話しました。

春闘討論集会で決定した方針を受け、１月13日に開く県本部春闘討論集会で協議・提起し、各単組の春闘期の取り組みがスタートします。

総務大臣に署名提出

会計年度任用職員に勤勉手当を

茨城7155筆

自治労は11月25日、会計年度任用職員の処遇改善にむけ取り組んできた署名55万２０１７筆を総務大臣に提出しました。

２０２０年４月から適正な任用・勤務条件の確保を目的に会計年度任用職員制度が開始されました。賃金制度、特に期末手当や各種休暇制度などにおいて一定程度の処遇改善は図られたものの、未だ常勤職員との格差が解決されたとは言えません。

特に、短時間の会計年度任用職員は法律上、期末手当しか支給ができないとされています。この署名は、会計年度任用職員へ勤勉手当を支給可能にするための法改正と交付税措置とともに雇用安定を求めるよう総務省に提出、茨城は７１５５筆を集めました。

会計年度任用職員は、自治体職場には欠かせない戦力となっています。同一価値労働同一賃金、処遇改善にむけ、引き続き取り組みを進めていく必要があります。

視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用できない人のために、営利を目的とする場合を除き「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等の製作をすることを認めます。その際は著作権者、または、出版社まで御連絡ください。

カメラで追った 2022

2022旗開き・春闘討論集会（1月19日）

春闘期

県内で公共サービス
キャンペーン運動展開（3月）

連合茨城春季生活闘争決起集会（3月5日）

臨時大会で新執行体制決定（3月11日）

各地でロシア軍事侵攻反対集会開かれる(３月26日水戸駅前・４月８日日比谷野音)

新規採用者組織化にむけ対策会議（3月15日）

青年女性県内職場交流集会開く(6月12日)

憲法改悪反対・総がかり行動(6月8日)

労働者の祭典・県中央メーデー
（4月23日）

参院選で堂込まきこさん（左）鬼木まことさん（右）当選（７月）

組合活動学ぶユニオンセミナー
（５・７月）

年３回ブロック別に活動者学校
（5・6・7月）

現業・公企統一闘争委員会(9月28日)

日立市職が野球大会全国３位(9月8-11日)

じちろう共済単組代表者会議(9月14日)

確定期

拡大闘争委員会(10月21日)

賃金確定討論集会(10月15日)

定期大会で闘争方針決定(9月28日)

定年まで働ける環境めざす

現業評議会が定期総会開く

現業職場の処遇改善にむけ杉本議長の
団結ガンバローでたたかいを決意

県本部現業評議会は、12月３日、自治労会館で第58回定期総会を開き、12単組29人が参加しました。

はじめに杉本議長があいさつで「牛久市職現業職は最高給与格付けが３級でも実際運用は２級止まり、定年引き上げ制度導入で60歳以降が給与７割水準となれば東海村職現業職では会計年度任用職員より低くなる可能性など、私たちを取り巻く現業職場は給与をはじめさまざまな課題がある。組合員の声を基に取り組みを進めていこう」と、県内での現業職場の実態から改善へむけ団結を訴えました。

総会は、１年間の活動の経過報告が行われたあと、運動方針と新年度の役員体制を決定。あわせて各単組の現業労働者賃金・労働条件要求書の取り組みも報告されました。

現業職場は、国の集中改革プランやトップランナー方式政策など合理化攻撃が続けられてきた結果、人員不足、施設老朽化など安定した公共サービスの提供が困難な状況となっています。現業評議会が持つ協約締結権を活用しながら要求・交渉を行い、定年引き上げが行われても働き続けられる賃金・労働条件改善にむけ、声を上げ続けていきましょう。

2023年度現業評議会役員体制

議　長	杉本　道博	取手市職
副議長	日向寺裕也	県職現業労組
副議長	相澤　輝子	東海村職
副議長	関口　朋和	龍ケ崎市職労
事務局長	篠崎　勇一	北茨城市職
事務局次長	赤津　誠二	高萩市職
幹　事	稲葉　　勉	北茨城市職
幹　事	金田久美子	常陸太田市職
幹　事	宇野　幸恵	常陸大宮市職
幹　事	廣内知佐子	那珂市職
幹　事	圷　百合香	東海村職
幹　事	山本　親広	水戸市職
幹　事	粟野　広美	鉾田市職
幹　事	馬場　典子	行方市職
幹　事	笹沼美智子	鹿嶋市職
幹　事	菊池　千草	大子町職
幹　事	金久保　昇	県職現業労組

2022年 国内十大ニュース

■ロシアによるウクライナ侵攻に批判高まる

ロシアによるウクライナ侵略に各地で抗議行動広がる（２月）。一方、軍事的緊張に乗じ、米国の核兵器を自衛隊が運用する「核共有」の推進を、自民、維新の議員らが主張。好機とばかりに、敵基地攻撃能力の保有など「大軍拡」を推進

■憲法審査会、ほぼ毎週開催

国会の憲法審査会が２月以降、ほぼ毎週開催に。従来は予算成立後、与野党の合意を踏まえながら開催していたが、「改憲勢力」の数の力を頼みとする強引な運営が目立つ。コロナ禍で課題山積なのに、なぜ改憲を急ぐのか。熟議はどこへ

■棋士の藤井聡太、10代初の５冠達成

将棋棋士の藤井聡太さんが、王将のタイトルを獲得し、19歳６カ月で８大タイトルのうちの「５冠」を達成（２月）。10代での達成は初。羽生善治九段の持つ最年少記録（22歳10カ月）を塗り替えた。今年、名人位初挑戦への期待高まる

■満額回答、相次ぐ

春闘で、大手企業の異例の「満額」回答が相次ぐ（３月）。背景には、日本の賃金が長らく停滞し、国際的に低位に陥った事実と、内需の低迷による国内経済に対する危機感の広がりがある。一方、経団連は総額人件費抑制の姿勢を変えず

■佐々木朗希投手、28年ぶりの完全試合

千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手が対オリックス戦で、日本プロ野球史上16人目の完全試合を達成（４月）。最高１６４キロもの速球と高速フォークを武器に圧巻の19奪三振。28年ぶりの大記録達成を前に満員のスタジアムが静寂に包まれる

■安倍元首相、銃撃される

参院選投票日２日前の７月８日、奈良市内で遊説中の安倍晋三元首相が、銃撃され、死亡。容疑者の犯行動機が旧統一教会に対する恨みだったことが後に明らかとなり、自民党と旧統一教会との癒着が政界を揺るがすことに

■最低賃金、過去最高の31円引き上げ

２０２２年度の地域別最低賃金改定で平均31円の引き上げに（10月）。最高額は東京の１０７２円で、最低額が10県の８５３円。過去最大の上げ幅でも、時給１５００円前後の欧州先進国や米国の一部の州には遠く及ばず。全国加重平均額は韓国に追い抜かれる

■猛威奮うオミクロン株、第７波

参院選直後から感染が急拡大。オミクロン株「ＢＡ・５」が猛威を振るい、ピーク時には１日の感染者が25万人超に。保健衛生・医療削減のツケ大きく、泥縄のコロナ対応に加え、急性期病床の削減を強行。命を守らない政治が続く

■反対をおして「国葬」強行

各種世論調査で半数超が反対する中、岸田政権が安倍元首相の「国葬」を強行。法的根拠の欠如や、国会無視の決定など、自民党内最大派閥の安倍派に、なりふり構わず忖度（そんたく）する異様さ。内閣支持率が急落し、不支持率が上回る

■物価高騰、とどまるところ知らず

生鮮食品を除く９月の消費者物価指数がついに前年同月比３％の上昇に。ウクライナ危機に伴う資源高に加え、１ドル＝１５０円に達する急激な円安が輸入物価の高騰招く。政府は打つ手なし。中低所得者の生活に大打撃